修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）6－36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
（財団法人　全国修学旅行研究協会の趣意書から）

第7回全国修学旅行研究大会
――11月28日　豊橋市で――

全修協山本理事長があいさつ

連帯感の育成を図る特色ある修学旅行
愛知県と三重県の二中学校が研究発表

東海三県中学校修学旅行委員会（大島直樹会長・名古屋市立冨士中学校長）と、財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）が主催する第七回全国修学旅行研究大会が、文部省・東海三県各教育委員会ほかの後援のもとに、十一月二十八日午後豊橋市のホリデイ・イン豊橋を会場として、東海三県を中心に全国から三百五十名に及ぶ参会者を得て盛大に開催され、数多くの成果を挙げた。

研究大会は十三時三十分、壁谷安之豊橋市立青陵中学校長の司会の下に、荒木務津市立西橋内中学校長の開会のことばで始まった。

冒頭のあいさつで大島東海中修委会長は、修学旅行の目的を的確に押さえ生徒主体の修学旅行の実現を目指して、各校が創意工夫することの必要性を強調された。また、山本全修協理事長は、学習指導要領の改訂により修学旅行に対する教育界の関心が一段と高まってきた。本大会は修学旅行の教育的意義を考える良い機会であると提言された。

来賓の愛知県教育委員会義務教育課松田康朗指導主事からは、新学習指導要領の趣旨に沿い、修学旅行を体験的総合学習の場として受け止め、創造的な企画を願うと、また、地元の豊橋市兵東政夫教育長からは、市の沿革・現況が紹介され、本大会の成果を期待する旨の歓迎のあいさつがなされた。

続いて、本研究大会の講師渡部邦雄文部省初等中等教育局教科調査官と、愛知県教育振興会定盛光治常務理事が来賓として紹介された。

最初の研究発表は、豊橋市立青陵中学校鎌田孝一教諭の「集団意識を高める手作りの修学旅行」を主題とする発表であった。当校は愛知県一の大規模校。修学旅行は班別分散学習を実施することを前提にして学年の系統を押さえ、三年がかりで生徒の連帯感や自主性を育てあげ、修学旅行を成功させた実践報告がなされ、参会者の共感を得た。

次に、名張市立南中学校松崎一三校長が「特色ある修学旅行の実践を求めて」の主題で発表した。内容は生徒の発想を生かした班別学習の定着と継続。事前指導の充実をねらい下見を年二回実施。緊急時の対応措置に配意。平成四年度から三年生実施に踏み切り集大成の場にしたい等であった。発表の随所に教師と生徒の信頼関係の濃さが認められ、参考となる点が多かった。

研究協議で、青陵中には生徒による旅行心得作成の意義と効用について、南中には実施学年の移行理由について質問があった。両校から的確な応答がなされ終了。時間不足で協議内容を深めることができなかった点を反省したい。

続いて、「教育改革と修学旅行」と題して渡部教科調査官の講演が行われたが、その要旨は別掲したので熟読願いたい。

十六時三十五分、渡辺宏岐阜市立精華中学校長の閉会のことばで大会の全日程を終了した。

〈参会者の声〉
1、文部省教科調査官の講演を拝聴することは不可能に近い。今日はそれがかなえられ大変満足した。
2、会場の施設・設備がすばらしく、発表内容も参考となり有意義な会であった。

（2面に関連記事）

時言
自主的班別活動と修学旅行

大阪事務局長　大友　恭

当協会と各地区修学旅行委員会主催による本年度の三つの修学旅行研究大会も別掲のとおり終了した。

ここ数年にわたる修学旅行研究大会における実践報告をみると、体験学習の重視、自主的班別活動による見学等を組み入れた修学旅行が主流化してきている。

文部省は、今回の学習指導要領改訂に当たって、こうした学校教育現場の実践を反映させ、二十一世紀を目指した日本人の育成をねらいとして改訂を図っている。

修学旅行は、総合的教育活動であり、既学習の検証・発展、新しい学習への準備や、集団活動を通しての規律や秩序を守りつくる態度の育成、生涯の楽しい思い出をつくることなど、多くのねらいや内容をもっている。

自主的班別活動も、こうした目標や内容を実現する一つの方法であり形態である。修学旅行に組み込まれている体験学習や諸施設、文化財・自然等々の見学、鑑賞についても、可能な限り自主的活動によってより積極的、主体的な学習、経験となるよう工夫されてきている。

自主的班別活動による見学についてみると、見学地への行程を中心に、グループごとに仲間が協力して行うことを目的の主たるものとした活動と、見学そのものを選択の段階からグループ化して、班構成を行って実施するという班別行動形態とがみられる。

また、自主的班別活動は、小・中・高校の発達段階や学校、生徒の実態に即して重点を決め、ねらいを達成するために最も効果的な形態を考えることが大切である。

一方、自主的班別活動という形態を中心に修学旅行を実施するためには、計画段階での周到な準備が必要であり、この段階から生徒たちの参加が必要である。計画段階からの参加が、既に自主的教育活動といえる。

多くの実践報告でいわれるように、入学当初から実施時期を見通しての諸活動や諸学習の積上げを系統的、計画的に行うことが基本となる。それぞれの学校の教育課程の中に明確に位置づけられ、総合的教育活動として行われることが修学旅行の教育的価値を高めることとなる。

自主的班別活動として見学や野外活動を実施するためには、生徒たちが、そのねらいや内容、具体的活動を事前に十分理解していることが必要である。そのため、教職員は、いろいろの予想される場面を考え、安全確保、教育効果等々考慮して、事前学習、事前調査に万全を期すことが必要である。

見学等の形態についても、ねらいが十分達成されるための最善の方法を考え、一斉（学級別等）の見学か、班別活動による見学かを決めることが大切である。例えば、文化財鑑賞等で、適切な解説や助言並びに時間や雰囲気によって生徒たちの感激も大きく異なってくる。

修学旅行は、学校や家庭を離れ、同年代の者が仲間や教職員と寝食を共にし、新しい土地で体験する学習活動である。すべてが新しい発見となる場である。同時に、安全と楽しさを基本に教育的に行われるものである。

修学旅行に関係する交通機関、旅館、施設関係者が日本の次代をつくる青少年を育てる機会として修学旅行をとらえ、間接、直接に教育にかかわる者としての理解や協力こそ、修学旅行を通しての人間形成に大きく寄与する力となる。

来年度大会は千葉県で
三地区修旅連臨時総会

関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（大島直樹会長・名古屋市立冨士中学校長）の本年度臨時総会は、十一月二十九日豊橋市のシーパレスリゾートで開催、前日行った第七回全国修学旅行研究大会の総括を行うとともに、来年度大会開催県等について審議した。

籔野昌治副会長の開会の辞、大島会長、山本種一顧問（財）全国修学旅行研究協会理事長）のあいさつがあり、議事に入った。

(1)布目雅之運営委員（越谷市立千間台中学校長）から平成三年度修学旅行費等の国庫補助金（要保護・準要保護家庭並びにへき地校の児童生徒が支給対象）の増額に関して、大蔵省に対し行った陳情についての報告があり、前田寛参与（財）全修協事務局長）が補足説明を行った。

(2)糸賀英一事務局長（財）全修協修学旅行部長）から、修学旅行安全対策実態調査の集計経過について報告した。

(3)兼子勉委員（財）全修協名古屋事務所長）から前日行われた第七回全国修学旅行研究大会の、アンケート結果に基づく大会の総括がなされ、参加者の95％が有意義であり、それ相応の意義があったとし、期待はずれはごく少数であった。また、今後の研究大会に希望する内容として、現場の生々しい実践、体験発表が90％を超えたことが報告された。

(4)事務局から来年度の全国大会の開催県について提案があり、松井秀雄千葉県代表（市川市立南行徳中学校長）が「第一回大会以来の成果を継承し、千葉県が総力を挙げて開催することを受諾する。委員各位並びに全修協の強力な支援をお願いする」と言明、次期大会は千葉県が担当することを満場の拍手で決定した。

大友恭委員（財）全修協大阪事務局長）の閉会の辞で終了した。

海外旅行者一千万人!!
一年早く目標を達成

来訪外客は三百万人に

運輸省の調べによると、今年の日本人海外旅行者数は、十一月二十六日に一千万人を超えた。

同省が策定した「海外旅行倍増計画（テン・ミリオン計画）」の目標年次より一年早く達成されたことになる。

また、日本を訪れる外客数は、国際観光振興会（JNTO）の調べによると、十一月三十日に三百万人を突破、出入国者数のアンバランスは大きいが、国際交流は急ピッチで進行している。

風紋

美しい紅葉で知られる嵯峨野の宝筐院に、足利義詮の墓と楠木正行の首塚が並ぶ。夢窓国師の高弟黙庵に深く帰依した義詮の遺言によるものだが、南北朝の恩讐を超えた心のぬくもりを感じる▼菊池寛の「恩讐の彼方に」では、贖罪のため人々の難儀を救おうとする禅海の側に、少しでも早く仇を討とうとする実之介が並んで槌音を響かせる。やがて青の洞門がくり抜かれたとき、二人は手を取り合って感涙にむせぶ。人の心を打つ話だ▼今年の七月、愛媛県瀬戸町の町長がハワイのパール市に友好都市提携のためのメッセージを送った。瀬戸町は人口約三千五百の農漁村だが、真珠湾の地形によく似た三机湾があり、開戦二年前頃から、極秘裡に特殊潜航艇の訓練が行われた所だ。来年は開戦から半世紀。三机湾の近くに記念碑を建てるという▼大分県中津市に近い八面山に、日米両軍戦没者慰霊碑が建っている。B29に体当たりして散った二人の日本兵士とB29乗員十一名を合祀するものだ。十二月八日が来ると、先の大戦を思い出すことも多いが、平和への希求とともに、人間どうしの心の触合いの大切さを思う▼NHKの大河ドラマ「私本太平記」が間もなく始まる。千早赤坂村に行くと、二つの五輪塔が並んでいる。敵・味方の戦死者の冥福を祈ったものだが、身方塚より寄手塚の方が大きく、楠木氏の人間的な温かさが感じられる。「私本太平記」をめぐる旅で、平和の有難さを思い、人と人との心の触合いを深めたいものだ。（北）

信頼される旅づくり

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く想い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

ツーリストの修学旅行。

近畿日本ツーリスト　本社 〒101 東京都千代田区神田松永町19-2
支店／国内250店（登録）／海外15店　運輸大臣登録一般旅行業第20号

第七回全国修学旅行研究大会講演要旨

教育改革と修学旅行

文部省初等中等教育局　教科調査官

渡部邦雄氏

一、教育課程の改訂と学習指導要領

社会が急激に変わる中で昭和五十二年にできた従前の指導要領では間に合わなくなった。そのことが中教審や臨教審で指摘され、日本の教育の方向が示された。

それを受けて、教育課程審議会が答申したのが、次の四つのねらいである。

○豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成を図る。

○自ら学ぶ意欲と、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視する。

○国民として必要とされる基礎的、基本的内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図る。

○国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度を育成する。

この答申を受けて、新学習指導要領が決められた。

したがって新学習指導要領は、その前提に日本の社会全般からの教育界への要請を受けて作成したものであるということを認識しておかないといけない。

二、新学習指導要領の基本的な考え方

①二つの観点

・社会の変化が急激であること。それに伴い子供の意識や生活が急激に変容しており、それにどのように対応するかという観点に立つこと。

・これからは生涯学習社会である。その社会が到来した中で、どのように対応していったらよいかという観点を押さえること。

②学習指導要領の重点

○心豊かな人間の育成

○基礎・基本の重視と、個性を生かす教育

○自己教育力の育成

○文化と伝統の尊重

三、特別活動の中における学校行事の特質

①特別活動のねらい

・望ましい集団活動を通して自主的・実践的な態度を育てること。

・望ましい人間関係の育成

・基本的な生活習慣の形成

・心身の健康と安全

・日本人としての自覚

・公共に奉仕する精神の涵養

・個人及び社会の一員としての在り方

・適切な進路の選択

この七項目を、体験的な活動、各学校の創意工夫、自主的、実践的態度の育成とだぶらせながら修学旅行に当てはめるとよい。

②特別活動の指導重点

・様々な内容をもつ多彩で総合的・体験的な活動で、学校に変化を付ける。

・大きな組織としての仲間意識・連帯感・帰属意識を育てる働きがある。

・協力参加して活動していく中で、自主的・実践的な態度を身に付けていくことができる。

・集団生活に必要な基本的な行動様式や、集団の決まり・秩序を守る態度を身に付けていく。

四、旅行・集団宿泊的行事

平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

五、修学旅行

①修学旅行のポイント

・平素と異なる場の効用

・多様な生活経験ができる

・終日を共にする集団生活

この三つが相乗効果をもって、修学旅行のねらいを果たしていくのである。

②修学旅行を通して

・集団行動を通して、自律性や集団としての規律、秩序を守る態度を育てる。

・自立心、社会性、協調性、連帯感が育成される。

・友達同士、先生と生徒との人間関係が深められ、信頼関係も確立していく。

・多くの人々との出会いがあり、真剣に働いている人々の生きざまをみて、これからの自分の生き方や進路を考える上からも参考になる。

・学校では学習しにくい自然環境、文化、産業、経済、歴史的景観などを臨場感、五感をもって学ぶことができる。そして、教科の学習で得た知識にプラスそれを肉付けして広い知見や豊かな情操を育成することができる。

③修学旅行と人間形成

修学旅行の経験はすぐに成果があるとはいえない。一人の人間形成を考えたとき、ピラミッドはたくさんの石を積み上げてできている。一人の人間というピラミッドの中の一つの石として修学旅行の体験が生きてくるのではないか。生徒は各地の良さを得て、ピラミッドの一つの石として心に残すのである。

修学旅行での体験は、あたかも扇状地の中を流れる伏流水のごとく、生徒たちの人格形成の中に息づき、将来いつの日にか開花するであろう。

○おわりに

修学旅行は非常に意義がある。生徒の人間形成に果たしている重要な役割を認識して、これからも有意義な修学旅行になるように尽力していただきたい。

（文責・編集部）

第七回全国修学旅行研究大会発表要旨

集団意識を高める手作りの修学旅行

愛知県豊橋市立青陵中学校

教諭　鎌田孝一

二十一世紀は「孤立化の時代」と言われている。現に集団でいても、一人で遊ぶ子供が多くなっている。そこで、本学年では、一学年の時から「集団の中で生活できる生徒の育成」を目標としてきた。この実現に当たっては、学校教育のあらゆる場面で実践されるのであるが、平素と異なる環境のもとで実施される修学旅行を絶好の機会と考えた。そのためには、一年、二年と実施される遠足を修学旅行に向けて、計画的に段階的に指導するよう心掛けてきた。

そして、一学年五七八名という大集団が、決まり正しく行動するためには、教師の一方的な指導ではなく、生徒の自主的・実践的活動を重視しながら教師の適切な指導と助言が大切であると考えた。

そこで、「自分たちの手で修学旅行を成功させるんだ」という気持ちを持たせるような活動を取り入れるようにした。

自分たちの手でコース作りをさせた。これは、代表によるガイドブック作り、学年集会での見学地説明会などを始めとして、個人でコースを研究し、班で検討し決定するというものであった。

また、旅行中の心得を生徒たちの手によって作らせることをした。安全、時間、金銭に関することは、教師側で押え、後の部分については生徒に任せてみた。

まず、一人一人が考えた心得を整理し、学級や修学旅行委員会で話し合い、心得の原案を作り、それらを生徒の代表が、教師の行う学年会に提案し、決定した。そして、学年集会で全生徒に発表するという活動をし、お互いに気を付けようという気持ちを高めることができた。

生徒たちは旅行中はもちろん、事前の活動の中でも、集団で行動する楽しさやそのために必要なことを学ぶことができたようである。

特色ある修学旅行の実践を求めて

三重県名張市立南中学校

校長　松崎一三

一、はじめに

本校は開校八年目を迎え、生徒数八五二名、学級数二二学級で、開校当時と比べて倍増している。当市では、以前は三年生の春に修学旅行が行われていたが、昭和三十八年頃から二年生の秋に行われるようになった。

最近、修学旅行を根本的に見直そうとする気運が高まり、平成元年度、検討委員会を設けて検討を重ねた結果、平成四年から三年生の春に行うことになった。

ア、検討委員会の検討事項

実施学年、時期、目的地、交通機関

イ、三年生の春の実施に伴い調整したこと

・学校行事全体の見直し

・旅行、宿泊行事の学年間の調整

二、本校修学旅行のねらい

仲間意識を高め、個性を伸ばし、集団の一員として自主的・実践的態度や協調性、責任感を育てる

三、特に配慮した事項

ア、前年度の反省と課題の解決

・事前準備について

・生徒の指導体制について

・班別学習行動計画について

イ、修学旅行のねらい

・改定指導要領から

・本校の努力目標から

ウ、下見の重視

エ、平常の仲間作り

オ、緊急時の対応

・チェックポイント

・ポケットベル

四、修学旅行の反省

ア、生徒の反省

・旅の計画と実際

・旅と健康の管理

・団体生活

イ、職員の反省

・事前準備について

・生徒の活動について

・指導体制について

・班別学習について

五、おわりに

本年度は二年生で実施する最後の修学旅行であったが、天候にも恵まれ、心配された事故もなく無事に終ることができた。修学旅行で自主活動が増えると、生徒の事前学習と同時に、教師の負担が増えることも事実である。また、一年生からの仲間作りや、経験の積重ねが一層大切であり、平常の活動や事前の活動を通して、教師と生徒の人間関係と信頼関係の樹立が最も大切なことであると考える。

修学旅行総覧を発刊

(財)全国修学旅行研究協会

(財)全国修学旅行研究協会は創立三十五周年記念事業の一環として、「修学旅行総覧」を刊行致しました。

我が国独特の教育活動である修学旅行百余年の歴史を振り返り、当協会独自の調査による最新の統計資料に基づいて、修学旅行の現状と将来を展望し、修学旅行の全容を解析しようとするもので、関係各位の参考資料になるものと考えます。

1書名　修学旅行総覧―新しい修学旅行―

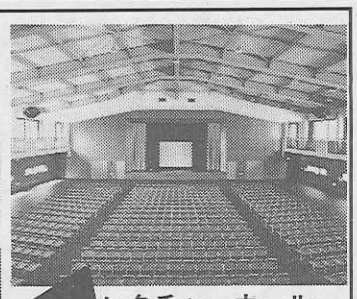
2規格　B5判本文270ページ

3発行　平成二年十一月

4定価　三千円(消費税込み)　送料三百六十円

5申込み　(財)全国修学旅行研究協会〒101東京都千代田区西神田二―八―七☎03・262・2932ファクシミリ03・2652・3931

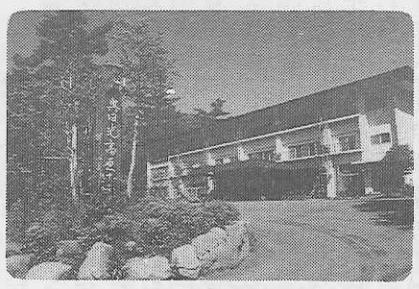
とびだせ自然へ
緑の箱根へ



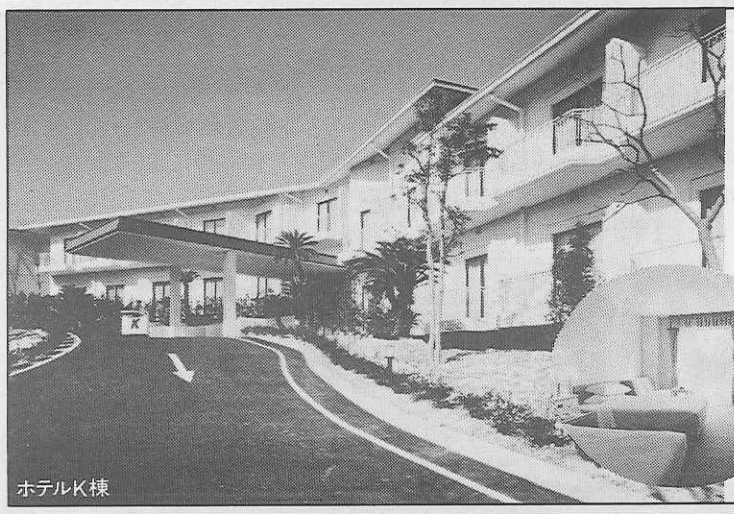
レクチャーホール

箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)

●修学旅行/林間学校/スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……



夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建／小学生550名／中学生550名／高校生450名収容／大浴場あり
奥日光高原ホテル
〒321-16 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)



ホテルK棟

きっと、思い出いっぱいの旅になる。
修学旅行は、鈴鹿サーキットで体験学習。
見て聞いて、触れて学ぶ。ためになる体験をしたら、宿泊はリゾート感覚あふれる〈ホテルK棟〉をご利用ください。魅力的な施設・サービスが修学旅行を思い出深いものにします。学校団体用SPECIAL PRICEにてお待ちしています。
そのほか、北欧風のD棟・E棟・G棟・J棟、団体でのお泊りに便利なビレッジF棟など多彩な宿泊施設もご利用ください。

▲横G体験が新しいサイドフォース カート(モートピア)

体験学習のご案内
●エンジン教室●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●モートピア●モータースポーツ観戦●地曳網
●潮干狩●伊勢形紙彫り●茶摘み●テーブルマナー 他

お問い合わせ・お申し込みは――
鈴鹿サーキット
〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎(0593)78-1111
東京営業所 〒107 東京都港区赤坂2―17―22 赤坂ツインタワービル東館16階 ☎(03)582-3221